



## 柔らかな香りが花開く 石けん粘土で作る香りの花

石けん粘土で香りの花を作る全3回の教室が女性センターで開催されました。1、2回目では石けん粘土を混ぜて思い思いの色を作るところから始め、出来た粘土でバラやリス、リンゴを制作。6月30日(火)の第3回ではゴンドラ型の土台に飾り付けをし、世界に一つの作品が完成しました。講師の源辰美さんは、第1・3金曜日の19時から活動している「クレイアートサークル」の講師も務めています。粘土作品に興味のある人はぜひ女性センターまで問い合わせください。

## 応援の気持ちを届けたい 学生応援フードパントリー

7月4日(土)、市と市社会福祉協議会は新型コロナウイルス感染症の影響でアルバイト収入が減少した市内の1人暮らしの学生を応援するため、フードパントリー(食料無料配布会)を開催しました。実施にあたり、多くの市民や団体からお米や乾麺、生鮮野菜、缶詰などが寄せられ、事前予約した100人の学生は思いのこもった食料品を受け取りました。トマトを提供した高田さんは「微力ながら学生さんの助けになれて嬉しい」と話しました。取り組みは秋にも行われる予定です。



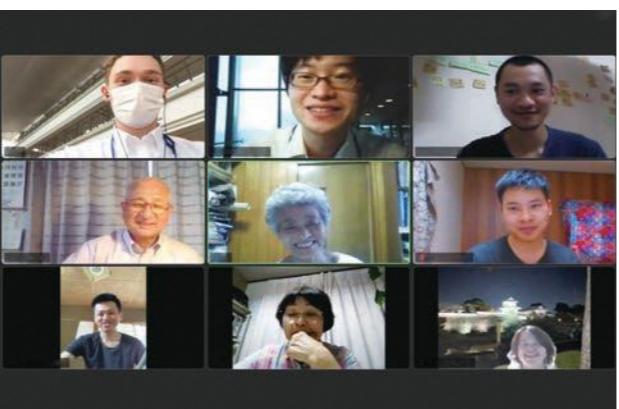
## マスクへの感謝を込めて フォルムのシティから市長へ礼状

6月19日(金)、市内の障害者福祉施設「フォルムのシティ」の利用者と施設職員が、市から福祉施設へ配られたマスクへの感謝を伝えるために粟市長を訪ねました。施設利用者で相談して決めた“Thank you”的メッセージにのっティのイラストやハート模様をあしらった手作りの礼状を持参。利用者の自治会「フルーツの会」会長の大寺智さんが「マスク、ありがとうございました。」と感謝の気持ちを添え、礼状と授産品の焼き菓子を手渡しました。



## オンライン開催は初めての試み 外国人のための日本語教室 in ののいち

7月13日(月)、27日(月)に、「外国人のための日本語教室 in ののいち」が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で実際に集まるのが難しくなったため、6月からビデオ会議ソフトを利用しオンラインでの開催。自宅からでも参加できるようになりました。ベトナムやフィリピンなど、海外出身の学習者が、ボランティアの日本語センターとの会話を通じ、日常生活で役立つ日本語を勉強しました。場所は離れていても、普段の教室と変わらない笑顔があふれていきました。



8月から通常通り、第2・4月曜日にカメリアで開催予定です。

# まちの話題 FOCUS

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。  
市民協働課 (☎ 227-6056)

## 重要文化財をみんなで大掃除！

### 「喜多家」おそうじ作戦

6月13日(土)に、国的重要文化財である「喜多家住宅」を市民の手で掃除するイベントが行われました。のいち里まち俱楽部と市観光物産協会が主催したこの取り組みは、地域の貴重な文化財を市民自らの手で掃除して、その魅力を再発見しようというものです。梅雨の雨が降る中、約30人の参加者が庭園の草取りや樹木の剪定、室内の拭き掃除に大奮闘。約1時間半の掃除で、中も外もぴかぴかになりました。

参加者からは「現在では見られないような細工がいろいろな建具に施されていてすてきだった」、「維持することの大変さと大切さが分かった」といった声が上がりました。訪れるだけでは得られない、たくさんの発見があったようでした。



## 朝採れ野菜がもりだくさん！ フレッシュじょんから市

地元の農家が当日収穫した野菜や切り花などの販売をする「フレッシュじょんから市」が、にぎわいの里ののいち カミーノで6月20日(土)に行われました。手指消毒の呼び掛けや現金の受け渡しにカルトンを用いるなどの感染症対策を徹底しての開催。多くの人が来場し、販売開始20分ほどでほぼ完売と大盛況でした。



カミーノ開催は今年が初。販売前から約60人が列を作りました。

今後は12月中旬まで、毎週水曜日15時からイオンタウン野々市、毎週土曜日15時からにぎわいの里ののいち カミーノで開催されます。

## 地域の見守り活動の再開へ 民生委員・児童委員へのマスクの贈呈

6月23日(火)に文化会館フォルテで令和2年度第1回民生委員・児童委員定例会が開かれ、コロナ禍で自粛していた地域での訪問活動を再開する99人の委員の皆さんにマスクを1箱ずつ贈呈しました。これらのマスクは、多くの企業や団体・個人からの寄贈品に、市の備蓄分を加えたもので、市長は「皆さんの見守り活動の安全対策に活用してほしい」と話しました。「密」を避けて2会場を中継で結ぶなど、ソーシャルディスタンスに配慮した定例会となりました。



民児協を代表して、東伸明会長にマスクを贈呈しました。